

常光寺々報

2015/4/14

親鸞聖人大遠忌法要

五月九日(土)昼一時半～四時

本願寺勸学寮頭

講師 徳永 道雄 和上

ご本堂落成慶讃法要

五月十日(日)昼一時半～

みやざきホスピタル副院長

講師 宮崎 幸枝 先生

《引き続き》

三時十五分～四時

記念式典・記念写真

四時～五時半

祝賀会

永年の懸案でありました駐車場の建設とご本堂の大修復工事が、おかげさまで昨春秋に無事に円成いたしました。この喜びを祝う法要を、来る五月九日・十日の両日にお勤めすることになりました。皆様とご一緒に喜びを分かち合いたいと思います。どうぞ、お誘い合せてお参りください。くわしい日程とご講師の紹介は別紙(色紙)をご覧ください。

ここで、事務的なことを先に申し上げます。大遠忌法要の**ご懇志**は彼岸などの法要と同じように受付にて承りますが、落慶法要の**祝儀**はすでに多額のご寄付をいただいているので、謹んでご遠慮を申し上げます。よろしくご理解ください。

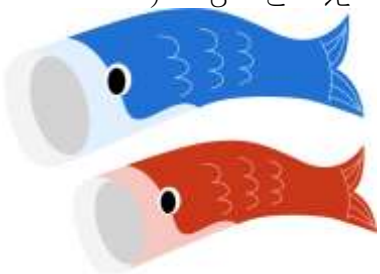
記念品につきましては、同封の**引換券**と引き換えになりますので、

必ずご持参いただいて受付にてお受け取りください。両日とも受付いたします。

もし両日ともお参りできないときは、**引換券**をご持参のうえ、お寺の玄関までお申し出ください。法要の四・五日前から八月頃まで対応いたします。但し、記念品の中の名物は入りません。

尚、法要当日の、法要が始まる直前の受付は混雑が予想されますし、また同じ記念品を皆さんがお持ちになりますので、置き忘れや紛失の心配もあります。できれば、お帰りの時間帯に引き換えられたら安心かと思えます。法要も長時間になりますので。

(老婆心ながら)



ご本堂はもともとお坊さんが修行をするためのものでした。でも、浄土真宗の場合はそうではなく、皆さんと一緒に仏さまの教えを聴聞するための、『聞法の道場』として建てられたものです。そのため本堂に最初に畳が敷かれたのも浄土真宗でした。

この度、そんな意味のご本堂がりっぱに再建されたことの喜びを、皆さまと共に、二日間ゆっくり味合せてもらいたいと存じます。

九日(土)は、親鸞聖人750回大遠忌法要のお勤めです。この法要は50年に一度の大法要であり、その法要を210年ぶりに新装になったご本堂でお勤めできるというのはめったにないご縁です。しかも、この記念すべき法要に、ときの勸学寮頭の徳永和上さまからご法話をいただけるといのは希有なもったいないご縁

でありあります。どうぞ、皆様にはこのご縁を大切にされまして、半日、ゆっくりご聴聞くださいますようお願い申し上げます。

翌十日(日)は、いよいよご本堂の落成を祝つての慶讃法要を勤めます。近隣の三浦組のご住職方にもご出勤をいただいで賑々しく勤まります。

ご講師の宮崎先生には初めてののご縁になります。先生は竜ヶ崎市にある病院で、「お浄土があつて、よかったね！」などと、患者さんたちと語り合いながらビハーラ活動も続けておられます。『医療と仏法』についてもお話くださることでしょう。楽しみにしています。

先生の記念法話は一時間ほどですが、その後、記念式典、記念写真とつづき、祝賀会のお開きは五時半ごろを予定しています。

おもえば、不可思議のご縁でありました。40数年前、この寺に入った頃には、まさか、自分の代にこんな大きな事業にぶつかるとは思つてもみないことでした。心がけが良かったのでしょうか、悪かつたのでしょうか。

210年の間には十代もの住職がおられ、また関東大震災をもくぐりぬけてきたご本堂です。その本堂がなぜ、この時期に大修復をせねばならなかつたのかと、こう言えば愚痴にもなりますが、徳永和上は

「運命”と”ご縁”の間には決定的に異なる点がある。それは”運命”が諦めを強いるものであるのに対し、”ご縁”は喜びをもつて受けとめられるという点であろう。」
と言われています。共々に、この度のご縁を喜ばせてもらいましょう。